

## I. 取組の概要

### 1. 取組の趣旨・目的

平成 16 年の文部科学省「看護学教育の在り方に関する検討会報告書」の中でも述べられているように、近年の看護教育における重要課題は、看護実践能力の強化である。本学においては、平成 14 年度から実習施設の協力を得て総合実習を設けるなどして、看護実践能力の強化に対応してきた。この総合実習で培われる看護実践能力は、主に療養生活支援に関連するものである。一方、少子高齢社会の到来とこれに伴う保健医療福祉政策の転換、すなわち施設内から地域在宅へ、また治療から予防へ、といった変化を受けて、看護に期待される役割の拡大に対応する必要がある。そこで、本学の平成 18 年度新カリキュラムでは、対象者の発達段階を枠組みとする従来の看護学教育の体系（母性・小児・成人・老人看護学等）を、健康生活支援学、療養生活支援学等として再構築した。地域住民への健康生活支援のあり方は、専門家から一方向的に提供するといったものではなく、人々の意欲や主体性を大切にする、協働でなければならない。また、家族や近隣といった人々とのつながりや助け合いが不可欠である。新カリキュラムでは、従来の病院などで働く看護専門職の育成のみならず、地域で生活する人々の健康生活を支援する実践能力を身につけた看護専門職の育成を目指している。このような新カリキュラムで意図した健康生活支援に関する実践能力を養うには、従来の地域看護学をさらに強化し、多様な人々の協力を得て地域を基盤とする教育課程、教育環境を整備する必要がある。

そこで、現代 GP\* としての本取り組みでは、「地域や家族を基盤とした人々の健康生活を支援する看護実践能力の育成」と「住民主体の健康づくり、まちづくり」を、地域住民や行政などと共に図っていくことを目的とし、大学による地域住民への健康支援と地域住民による大学教育への支援を融合させたカリキュラムの構築を図った。具体的には、まず、新たな看護教育モデルとして、本学と地域が協働して、地域住民によるボランティア（教育ボランティア）を導入したカリキュラムを構築した。次に、従来から本学が地域貢献として実施してきた地域での種々の健康生活支援事業を統括し発展させ、教育課程との融合を図った。さらに、取り組み全体を補完するために e ヘルスシステムの構築を行った。

---

\*文部科学省では、各大学・短期大学・高等専門学校等が実施する教育改革の取り組みの中から、優れた取り組みを選び、支援するとともに、その取り組みについて広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取り組みを参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめています。この「優れた取り組み」を「Good Practice」と呼び、この言葉を略して「GP」と呼んでいます。この「GP」の一つである「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」では、各種審議会からの提言などを踏まえ、社会的要請の強い政策課題（地域活性化への貢献、知的財産関連教育など）に関するテーマを設定し、これに対して各大学、短期大学、高等専門学校が計画している取り組みの中から、国公私を通じて優れた取り組みを選び、サポートします。また、選ばれた取り組みを社会に広く情報提供し、高等教育全体の活性化を促しています。（文部科学省ホームページより抜粋）

## 2. 取組の内容と期待される効果

上述の目的を達成するために、大学による地域住民への健康支援と地域住民による大学教育への支援を融合させたカリキュラムを構築し、以下に示すような取り組み内容を企画した。また、本取り組みによって期待される効果についても以下に言及した。

### 1) 地域住民による教育ボランティアを導入したカリキュラム

新たな看護教育モデルとして、本学と地域が協働して、地域住民による教育ボランティアを導入したカリキュラムを構築する。具体的には、地域住民が、健康生活支援学に関連する授業のゲストスピーカー、看護技術演習の模擬患者、健康生活支援技術演習で学生が企画・実施する健康教育の模擬受講者、地域における健康生活支援学実習で行う家庭訪問の受け入れ家族などの、教育ボランティアとして、あらかじめ本学に登録し、必要に応じて授業に協力するシステムを構築する。

<期待される効果>

教育ボランティアの導入により、教育方法の工夫が促され、学生の多様で実践的な学習を可能にし、教育活動全体の活性化をもたらす。さらに、受け手である地域住民とともに創っていく新たな看護教育モデルを提案することができる。

### 2) 地域住民・行政との協働による「西区ヘルスアップ作戦」

「西区ヘルスアップ作戦」は、本学が所在する神戸市西区（行政）が実施する住民主体の健康づくりの事業である。当該地域の組織を通じて地域住民の中からヘルスアップ推進員を選出し、ヘルスアップ推進員が中核となり、地域の健康課題を話し合い、目標を設定して健康づくりに関する活動を継続・発展させていく。平成17年度から西区と本学が協働で、この「西区ヘルスアップ作戦」の支援を開始した。この事業は、順次、西区各地区（全10地区）へ広げていく予定である。この活動に、本学学生がボランティアとして継続的に参加する。

<期待される効果>

学生が「西区ヘルスアップ作戦」に継続的に参加することにより、ヘルスアップ推進員とともに地域の健康課題を考え、地域住民が主体的に健康づくりを行っていく過程を体験し、地区組織活動について学ぶ機会となる。また、地区組織活動を支援する看護の役割について考える機会となる。

### 3) 地域・行政・学校・NPO との連携・協働による次世代育成事業

次世代育成とは、単に育児支援にとどまらず、人々が、命の尊さに気づき、自分や他の人を大切に思う気持ちを育み、それらを世代や立場を超えて伝え合う実践を意味している。本学が地域・行政・学校・NPOなどと連携・協働して行う次世代育成事業は多様であり、具体的には、主に「命の感動体験」「思春期ピアカウンセリング」「命の出前講座」「プレパパ・プレママセミナー」などの事業を行っている。

「命の感動体験」は、神戸市西区（行政）、神戸市西区内の小学校、地域の民生児童委員協議会、地域住民（乳幼児と保護者）との連携・協働事業であり、小学校5～6年生が、乳幼児とその保護者と自然で日常的なふれあいを通して命の尊さを学び、その感動を体験する事業である。この活動に本学学生がボランティアとして参加する。

「思春期ピアカウンセリング」は、NPO 法人ひょうごピアカウンセリング研究会との連携事業であり、性や生き方について、思春期前後の若者（兵庫県内の中学生や高校生）と同世代の大学生（本学学生）が、ピア（仲間）として同じ視点で話し合い、コミュニケーションスキルを主体的に獲得していく過程を支援する活動である。

「命の出前講座」は、地域の小学校との連携事業であり、本学学生や教員が地域（神戸市西区）の小学校に出向き、小学校4～5年生を対象に、第2次性徴や月経に関する思春期健康教育を行う事業である。

「プレパパ・プレママセミナー」は、神戸市西区との協働事業であり、本学学生が主体となって、妊婦とそのパートナーを対象に、妊娠、出産、育児に関するセミナーを行う事業である。

<期待される効果>

地域・行政・学校・NPO などとの連携・協働による次世代育成に関する多様な活動に、学生が主体的に参加することにより、次世代育成のための健康ニーズを適切に把握し、対象者が主体的に健康づくりに取り組んでいくことを支援するための実践能力の向上につながり、さらには、そのような次世代育成に関する実践が、世代や立場を超えて広がっていく仕組みづくりに寄与できる。

#### **4) 看護協会との提携による「神戸市看護大学まちの保健室」**

「まちの保健室」は、学校にある保健室のように「いつでも、誰でもが気軽に立ち寄って心や体の相談ができる」というキャッチフレーズで、各地の看護協会が様々な機関と提携して行っている事業である。本学では、兵庫県看護協会と提携し「神戸市看護大学まちの保健室」を実施している。具体的には、一般の地域住民を対象に、健康に関する講義や体験学習、健康チェックや健康相談などを行う「まちの保健室」、子育て中の保護者とその子どもを対象に、健康相談や子どもの発育測定、参加者間の交流促進支援などを行う「子育て支援（すこやかクラブ）」、精神的に悩みや障害をもつ人を対象にした「こころと身体の看護相談」を、学内のみならず、地域の施設へ出向いて実施している。「こころと身体の看護相談」は専門の本学教員が担当するが、その他の事業には、本学学生がボランティアとして参加する。また、学生が主体的に企画運営を行う機会を設ける。

<期待される効果>

学生が主体的に「まちの保健室」「子育て支援（すこやかクラブ）」に参加し、地域住民とさまざまな関わり合いをもつ中で、コミュニケーション能力や健康生活支援に関する実践能力が向上する。さらには、本学教員と協働して、あるいは主体的に「まちの保健室」を実施することにより、地域の健康支援に関する活動の企画・運営能力が向上する。

## 5) 地域住民の生活習慣と健康に関する調査

本取り組みは、現代 GP（地域活性化への貢献＜地元型＞）として採択され、本学が所在する神戸市西区の地域住民を主な対象としているが、特に本学キャンパスが存在する学園都市地区の住民は最も主要な対象である。そこで、本取り組みを実施する上で参考にするための生きた資料を得る目的で、学園都市地区住民を対象に「生活習慣と健康」に関する実態調査を実施する。また、調査結果の報告書を作成し、当該地域住民が主体的に自らの健康問題を考え、行動する手がかりにすることができるように地域住民に還元する。

＜期待される効果＞

地域住民の生活習慣と健康に関する実態調査をとおして、住民の生活習慣や健康問題への関心度、健康実態等の生きたデータを把握することができる。さらに、住民自らが健康づくりを行うための方策を考えたり、地域の健康問題を考えたりする資料を提供することができる。

## 6) 取組全体を補完する e ヘルスシステム

本取り組み全体を補完するために、情報コミュニケーション技術（ICT）を活用した健康支援システム（e ヘルスシステム）を構築する。具体的には、まず、本取り組みのホームページ（e ヘルスサイト）を立ち上げ、また、健康情報メールマガジンを発行し、本取り組みに関する情報を、地域住民をはじめ、広く人々に発信する。なお、当該地域には外国語を話す住民が比較的多いため、上記ホームページを可能な範囲で、英語、コリア語、中国語に翻訳し、外国語を話す地域住民に対しても本取り組みに関する情報の提供を行う。次に、健康をテーマにした「地域ソーシャル・ネットワーキング・サービス（地域 SNS）」を本学教員が中心となり運営し、また、健康支援に関するコンテンツ（e ラーニング教材）を作成しストリーミング配信を行う。なお、e ヘルスサイトで提供する各種コンテンツは、コンテンツ・マネージメント・システム（CMS）で統一管理する。基本システムの構築およびシステムの改善を含めた維持運営やネットワークセキュリティに必要な管理業務などについてはインターネット情報システム事業者（IDC 事業者）に委託する。

＜期待される効果＞

e ヘルスサイトに CMS を導入することにより、本学の学生、教職員が、専門知識を必要とせず、ホームページコンテンツの更新、健康に関する情報発信、ICT を活用した健康支援を行うことができ、自ら情報を発信する意識と能力の向上が期待できる。

## 7) 取組に関する講演会・シンポジウム

健康づくりに関して、地域住民、本学の学生・教職員が共に学ぶ機会として、神戸市看護大学現代 GP 講演会を開催する。また、取り組みの最終年度に、本取り組みの成果報告も兼ねて、地域住民をはじめ、各方面から意見を聞く機会として、神戸市看護大学現代 GP シンポジウムを開催する。

## 8) 取組に関する情報の収集と発信

### (1) 大学教育改革プログラム合同フォーラムへの参加

本学の取り組みを他大学に広く発表し、また、他大学の大学教育改革プログラム担当者と情報交換を行い、他大学の取り組みを参考にするために、文部科学省主催の「大学教育改革プログラム合同フォーラム」に参加する。

### (2) 学術会議等への参加

本取り組みに関連する最新の知見を得るために、また、本取り組みに関する成果を発表するために、各種の学術会議等に参加する。

### (3) eヘルスシステムによる情報発信

上述のeヘルスシステムを活用し、本取り組みに関するあらゆる情報の発信を行う。

### (4) 成果報告書（本報告書）の発行

最終年度には、本取り組みに関するすべての最終的な成果を報告書にまとめ、広く関係機関等に送付する。

## 9) 地域住民ボランティア(教育ボランティア)の組織化

上述の「地域住民による教育ボランティアを導入したカリキュラム」に協力・参加する地域住民を募集し、あらかじめ本学に登録し、登録証を発行する。教育ボランティアの募集は、本学の学内で行われる授業に参加・協力する「学内ボランティア」と、地域における健康生活支援学実習で行う家庭訪問などで協力する「実習ボランティア」の2種類に分けて行う。また、本学に関する情報を掲載した「教育ボランティア・ニュースレター」を発行し、教育ボランティアへ郵送する。

## 10) 学生ボランティア活動の促進と組織化

「ボランティア活動」という授業科目を立ち上げ、学生の自主的な奉仕活動などを単位として認定するシステムを構築し、本取り組みで行う健康生活支援に関する種々の活動と融合させ、学生のボランティア活動の促進を図る。また、上述のeヘルスシステムの一環で、学生ボランティアのメーリングリストを作成する。学生はこのメーリングリストに登録することにより、容易に教員から発せられる各種のボランティア募集情報を得ることができる。その他、本学学生・教職員の結束を固め、士気を向上させるために、ボランティアTシャツを作成し着用する。また、種々のボランティア活動に参加している学生間の交流・情報交換の場として学生ボランティアの集いを開催する。

以上に掲げた1)～10)の取り組みにより、先に述べた「看護学教育の在り方に関する検討会報告書（平成16年、文部科学省）」にある「学士課程で育成する看護実践能力」のうち、特に「利用者の意思決定を支える援助」「多様な年代や立場の人との援助的人間関係の形成」「人の成長発達段階・健康レベルの看護アセスメント」「生活共同体における健康生

活の看護アセスメント」「健康の保持増進と健康障害の予防に向けた支援」「次世代を育むための援助」「高齢期にある人の健康生活の援助課題の判断と支援」「地域ケア体制の充実に向けた看護の機能」などの健康生活支援に関する総合的な看護実践能力の向上が期待できる。

また、本取り組みは、大学による地域貢献でもあり、地域住民による大学教育への貢献でもある。また、学生、教員、地域住民それぞれの主体的な活動を促進する試みでもあり、世代間の交流を促す試みでもある。さらに、多様な取り組みの場面で、学生、教員、地域住民が出会い、関わり合いをもつ機会が増えることにより、取り組み全体の相乗効果が期待できる。なお、取り組み全体のイメージを以下の図 I-2-1 に示した。

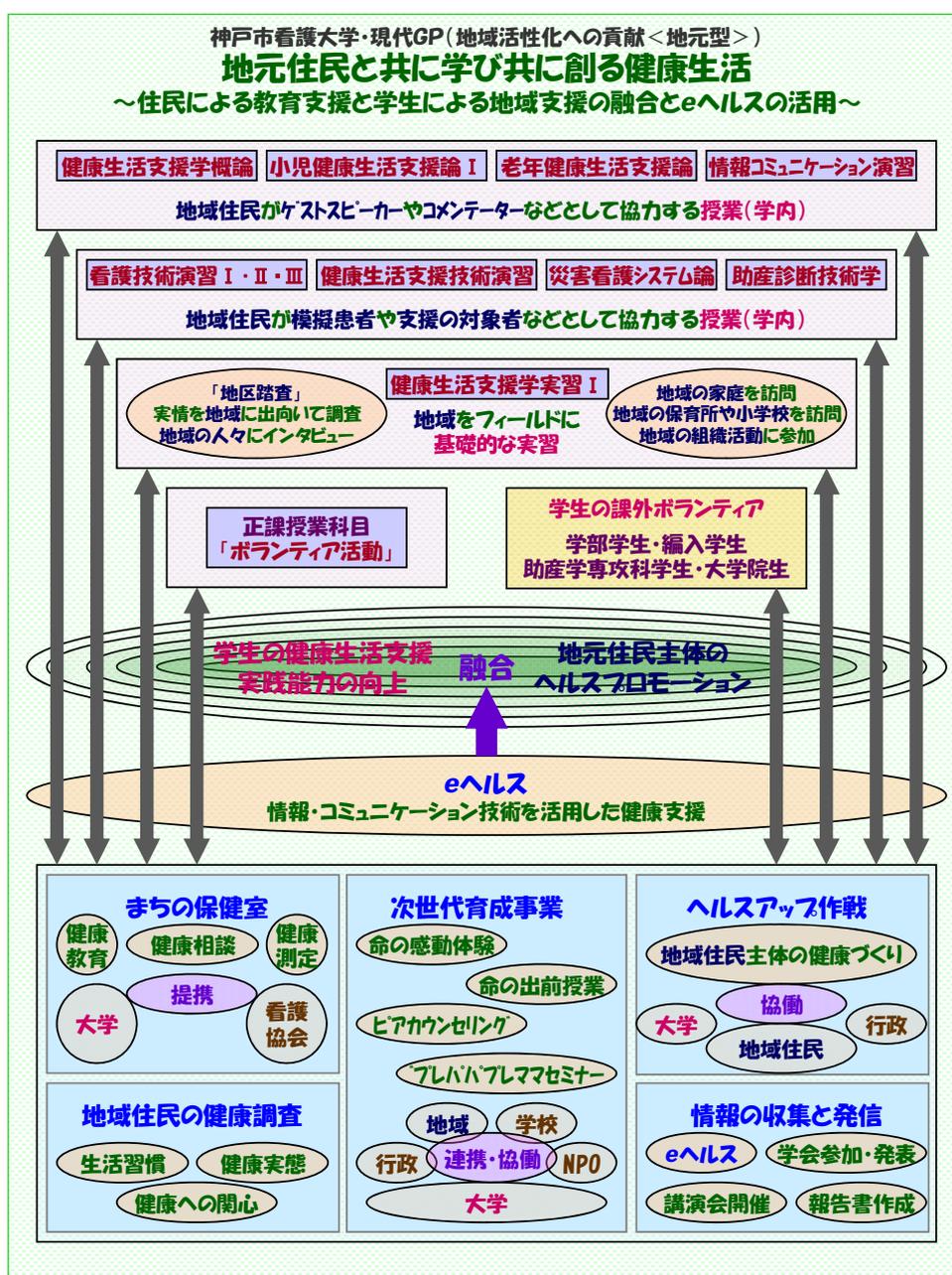


図 I-2-1 取り組み全体のイメージ

### 3. 取組の実施体制

学長が事業推進代表者として、本取り組み全体の指揮をとり、取り組みの具体的な計画・実施は、現代 GP 委員会が行う。ただし、重要事項については教授会で決定するなど、大学全体として取り組む。現代 GP 委員会の部門構成とその役割は次のとおりである。現代 GP 委員会は毎月 1 回開催するが、各部門のリーダーによる代表者会議と全構成員による全体会議を隔月で開催する。その他、必要に応じて各部門の会議を開催する。なお、現代 GP 委員会各部門の構成員氏名は巻末に示す。

#### <神戸市看護大学現代 GP 委員会の構成>

##### 委員長(学長)(1名)

事業推進責任者(1名)、学内調整責任者(1名)、予算調整責任者(1名)

##### 1) 健康生活支援学等学生教育部門(14名)

教育ボランティアを導入したカリキュラム(授業)を担当

##### 2) ヘルスアップ作戦部門(11名)

地域住民・行政との協働による「西区ヘルスアップ作戦」を担当

##### 3) 次世代育成部門(14名)

地域・行政・学校・NPOとの連携・協働による次世代育成事業を担当

##### 4) まちの保健室部門(25名)

看護協会との提携による「神戸市看護大学まちの保健室」を担当

##### 5) 健康調査部門(10名)

地域住民の生活習慣と健康に関する調査を担当

##### 6) eヘルス部門(11名)

取り組み全体を補完する eヘルスシステムを担当

##### 7) 現代 GP 講演会・シンポジウム企画部門(13名)

神戸市看護大学現代 GP 講演会および現代 GP シンポジウムを担当

##### 8) 地域住民ボランティア登録・管理部門(7名)

教育ボランティアの組織化を担当

##### 9) 学生ボランティア組織化・調整部門(10名)

学生ボランティア活動の促進と組織化を担当

##### 10) 評価部門(11名)

取り組み全体の評価を担当

##### 11) 成果報告書企画・編集部門(10名)

取り組み全体の最終的な成果報告書の企画・編集を担当

##### 12) 現代 GP 事務局(7名)

取り組みに関わる事務を担当